使用説明書

目次

基本編

応用編1

応用編2

その他

このカメラの機能を十分に活用していただくために、この使用説明書をご使用前にお読みください。またお読みになった後は、保証書、アフターサービスのご案内とともに大切に保管してください。

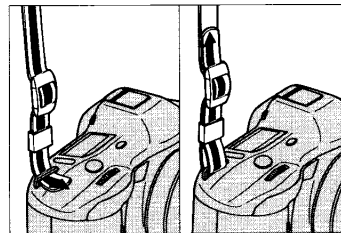
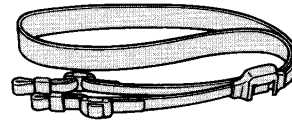
基本編

この章では、撮影前の準備と、もっとも簡単な撮影方法を説明しています。初めてカメラをご使用になる方でも、この章をお読みいただければ簡単に撮影ができます。

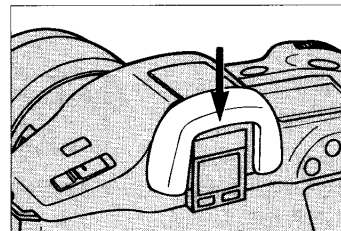
※各部の名称はこの使用説明書の最後にあります。

ネックストラップ/アイピースカップの取り付け方

お使いになる前に、付属のネックストラップとアイピースカップを取り付けてください。

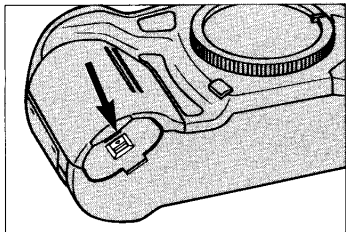
ネックストラップ

図のように取り付けます。

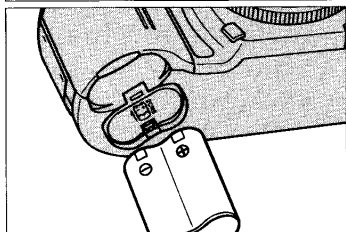
- 反対側も同様に取り付けます。
- 別売のハンドストラップと合わせて使用される場合は、ハンドストラップの使用説明書をご覧ください。

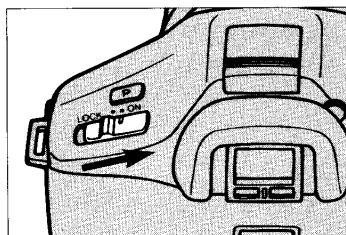
アイピースカップ

接眼枠の上から差し込みます。

電池の入れ方

使用する電池は6Vリチウム電池 2CR5 1個です。

1

電池室開放レバーを矢印の方向へ押して、電池室のふたを開けます。

2

電池室ふたの表示にしたがって電池を入れ、ふたを閉じます。

＜電池の容量について＞

メインスイッチをLOCKからONにすると、自動的に電池容量のチェックが行なわれ、ボディ表示部に表示します。

▰ 点灯(4秒間)
電池容量は十分です。

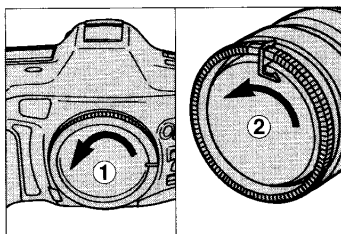
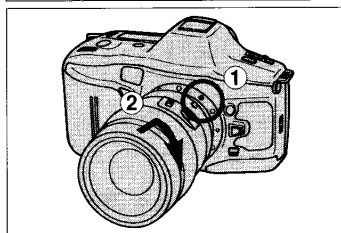
▱ 点灯(4秒間)
新しい電池を準備することをおすすめします。

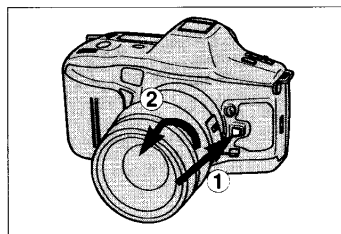
▱ 点滅
電池を交換することをおすすめします。

▱ 点滅・bAtt 点滅
シャッターは切れません。
電池を交換してください。

レンズの取り付け方／取り外し方

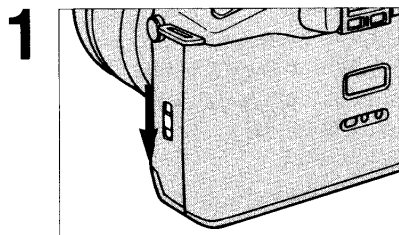
取り付け方

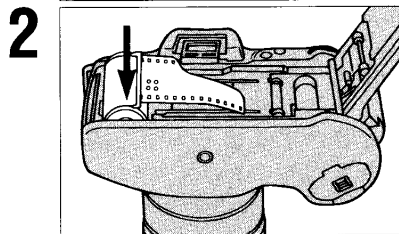
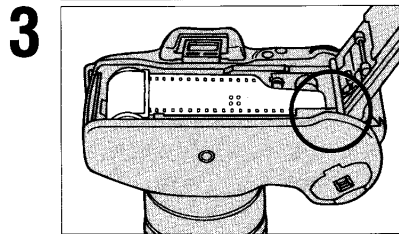
1

ボディキャップ①、レンズの後ろキャップ②を外します。

レンズとカメラの2つの赤い点①を合わせてはめ込み、カチッと音がするまで矢印方向に回します②。

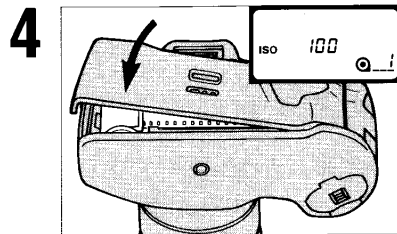
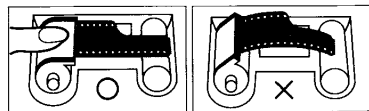
取り外し方

メインスイッチをLOCKにし、レンズ交換ボタンを押したまま①、レンズを図の方向に止まるまで回して取り外します②。

- 取り外した後は、キャップを付けて保管してください。

フイルムの入れ方

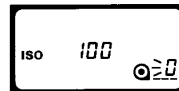
1

裏ぶた開放レバーを押し下げて裏ぶたを開けます。

2

フイルムを図のように入れます。

フイルムの先端を赤いマークに合わせます。

●フイルムが浮き上がらないようにパトローネ(フイルム容器)を押さえてください。

裏ぶたを閉じ、メインスイッチをONにします。

●フイルムが自動的に巻き上げられ、ボディ表示部に"1"が表示されます。

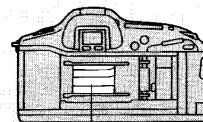
●フイルム感度が自動的にセットされ、ボディ表示部に表示されます。

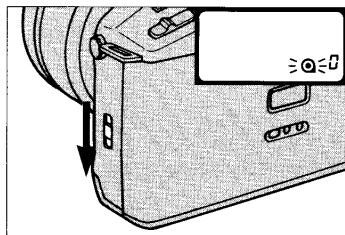
●フイルムが正しく送られていない場合、フイルムカウンターは0のまま点滅します。このようなときは、もう一度フイルムを入れ直してください。

注意

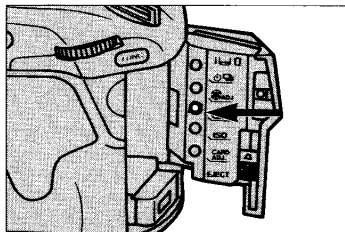
●シャッター幕は、非常に薄く精巧にできています。手やフイルムの先が絶対に触れないように注意してください。

●フイルムの出し入れは、直射日光を避けて行なってください。

●始めてカメラをご使用になるときは、フイルムを入れる前に裏ぶたの内側にある保護シートを取り外してください。

●72枚撮りフイルム、ポラロイドインスタントリバーサルフイルムは使用できません。

フイルムの取り出し方

フイルムの最後のコマを撮影すると、自動的に巻き戻しが始まります。

フイルムカウンターが"0"になり、◎が点滅したら、裏ぶたを開けて、フイルムを取り出します。

<フイルムを最後のコマまで撮影せずに途中で取り出したいとき>

カードホルダー内の途中巻き戻しボタンを押します。

● 途中巻き戻しボタンを使うと、巻き戻しの音を小さくすることができます。
（巻き戻しにかかる時間は長くなります。）

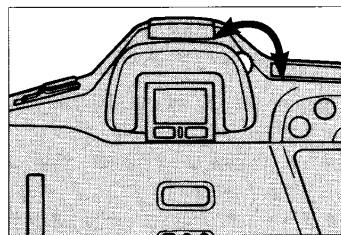
視度調整のしかた

目の調子によりファインダーが見にくい場合は、視度を調整して見やすくすることができます。

1

ファインダーをのぞき、オートフォーカスで被写体にピントを合わせます。

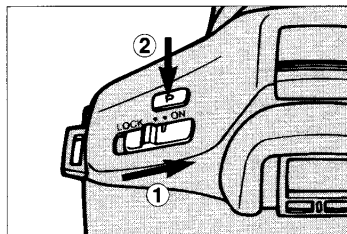
● のぞいただけでピントが合います。

2

被写体がもっともはっきり見えるよう、視度調整ダイヤルを回します。

● 視度調整ダイヤルをいっぱいに回してもはっきり見えない場合は、別売の視度調整アタッチメント1000の使用をおすすめします。

全自動撮影

プログラムセットボタンを押すと、カメラはもっとも基本的な状態(全自動)になります。

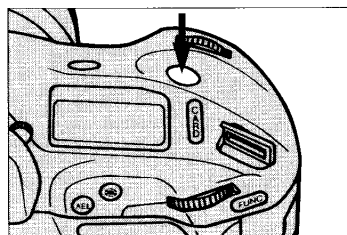
1

メインスイッチをONにして①、プログラムセットボタンを押します②。

- プログラムセットボタンの詳細については、P.12をご覧ください。

2

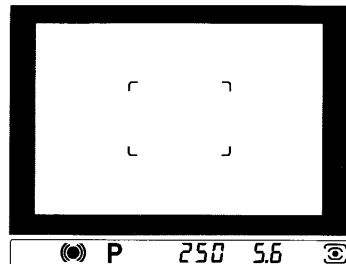
被写体にフォーカスフレーム[ ]を合わせます。

- ピント合わせ、露出設定が自動的に行なわれます。
- カメラが設定したシャッター速度と絞り値が表示されます。
- ファインダー内のフォーカス表示(◉)がピントの状態をお知らせします。

3

シャッターボタンを押し込んで撮影します。

- 撮影後、フイルムは自動的に次のコマに巻き上げられます。

<フォーカス表示(◉)について>

カメラを構えると、ファインダー内のフォーカス表示(◉)が以下のようにピントの状態をお知らせします。

- (◉)点灯：被写体にピントが合っています。
- ●点灯：ピントが固定されています。(シャッターボタン半押し後で*被写体が止まっている場合)
- ( )点灯：カメラがピント位置をさがしています。(シャッターは切れません。)
- ●点滅：ピントが合いません。(シャッターは切れません。P.21参照)

*シャッターボタンを軽く押すと、途中で止まるところがあります。これを半押しするといいます。

プログラムセットボタンについて

プログラムセットボタンを押すと、カメラはもっとも基本的な状態(全自動)に設定されます。設定内容は以下の通りです。

機能	ボタンを押した後の状態	参考ページ
撮影モード	Pモード	22, 23
ピント合わせ	オートフォーカス	16, 20
フォーカスフレーム	ワイドフォーカスフレーム	16, 17
測光方式	14分割ハニカムパターン測光	31〜33
露出補正	±0	34〜36
巻き上げ	1コマ巻き上げ	40
ワイドビューファインダー	解除	52, 53
セルフタイマー	解除	41
フラッシュ (取り付けている場合のみ)	必要時自動発光	56〜60
ワイヤレスフラッシュ	解除(カメラ側のみ)	--

以下の機能はプログラムセットボタンを押しても変更されません。

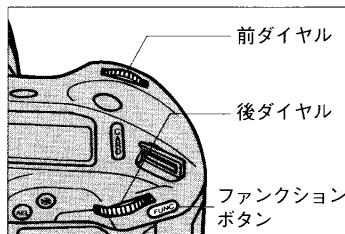
- Q(クイック)ボタンの設定
- フイルム感度の設定

●別売のカスタムカードXiを使うと、プログラムセットボタンを押した後の状態を撮影者の好みに合わせて変えることができます(撮影モード、フォーカスフレーム、測光方式、露出補正のみ)。

応用編 1

この章では、各種機能の操作方法やその機能を生かした撮影方法を説明しています。フォーカス関係、露出関係、その他の機能と大きく3つに分かれています。この章をお読みいただきますと、このカメラの持っている機能を活用した撮影ができます。

ファンクションボタンを使った各種機能の設定のしかた

α-9Xiは、シャッターチャンスにも素早く対応できるように、ファンクションボタンと前・後ダイヤルを操作するだけで、各種の機能が簡単に使えるようになっています。

このカメラでは、ファインダーをのぞいたままやグリップを握ったままで、各種の機能設定が行なえるようになっています。前ダイヤル・後ダイヤルの働きはファンクションボタンによって切り替わり、この内容がファインダー表示部およびボディ表示部に特定のマークで表示されます。

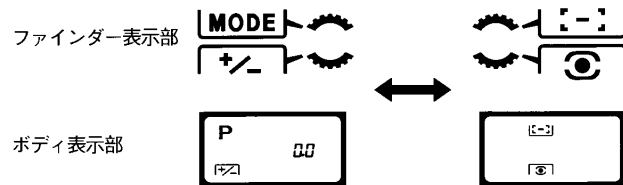
表示の見方についての簡単なルールを覚えていただければ、いろいろな機能を簡単に使いこなせるようになります。以下にその内容を説明します。

ファンクションボタンと前ダイヤル・後ダイヤルの操作で次のことができます。

(1)撮影モードの選択　　(3)フォーカスフレームの選択
(2)露出補正　　(4)測光方式の選択

各機能は、ファインダー表示部およびボディ表示部で以下のマークで表されます。

	ファインダー表示部(上部)	ボディ表示部
撮影モードの選択	MODE	P、A、S、Mのいずれか
露出補正	+/−	+/− +/ /− のいずれか
フォーカスフレームの選択	[-]	[ ] − のいずれか
測光方式の選択	◉	◉ ◯ • のいずれか

ファンクションボタンを押すごとに、ファインダー表示部およびボディ表示部にそれぞれのマークが次のように切り替わって表示されます。

■ファインダー表示部の見方
は前ダイヤルを表し、は後ダイヤルを表します。
これは、撮影モードの選択とフォーカスフレームの選択は前ダイヤルによって行ない、露出補正と測光方式の選択は後ダイヤルによって行なうことを表しています。

■ボディ表示部の見方
撮影モード表示(P、A、S、M)とフォーカスエリア表示はボディ表示部の前側に、露出補正表示と測光方式表示はボディ表示部の後側にそれぞれ表示されます。これもファインダー表示部と同様、撮影モードの選択とフォーカスフレームの選択は前ダイヤルによって行ない、露出補正と測光方式の選択は後ダイヤルによって行なうことを表しています。

それぞれの操作方法については、この使用説明書の本文をお読みください。

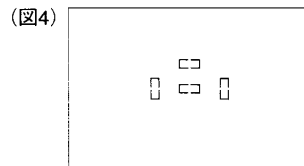
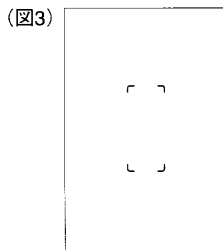
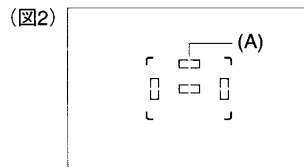
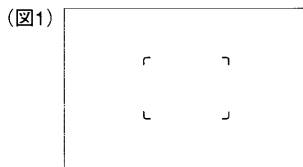
撮影モードの選択…………………P. 23
露出補正…………………………P. 34
測光方式の選択 …………………P. 33
フォーカスフレームの選択 ………P. 17

ピント合わせについて

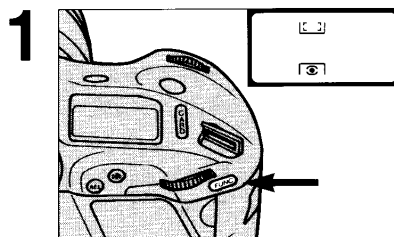
このカメラでは、容易にピントが合わせられるように、ピント合わせのできる範囲を広くしています。

◆このカメラでは、容易にピントが合わせられるように、ピント合わせのできる範囲を広くしています(図1)。そのため、被写体までの距離を測るセンサーが4個あります(図2)。このうち(A)のセンサーはカメラ横位置で人物撮影をする場合、顔にピントを合わせるために設けています。カメラ縦位置の時はこのセンサーは使いません(ピント合わせの範囲が少し狭くなります)。縦位置、横位置の判断はカメラが自動的に行ないます。

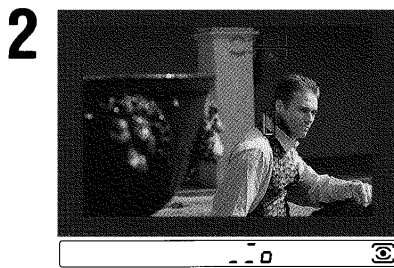
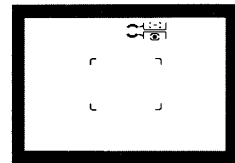
◆ピント合わせのできる範囲は、ファインダー内にワイドフォーカスフレームで表示されます(カメラ横位置のときは図1、縦位置のときは図3)。

◆ファインダー内のある特定の場所のピント位置を測りたいときには、4つのセンサーのうちの1つを選ぶことができます。これらのセンサーは、ファインダー内でローカルフォーカスフレームとして表示されます(図4)。

ローカルフォーカスフレームの選び方

ある特定のローカルフォーカスフレームを使ってピント合わせをすることができます。

1

ファンクションボタンを2回押して、フォーカスエリア表示を出します。

●ボディ表示部とファインダー表示部が図のようになります。

2

前ダイヤルを回して、希望のローカルフォーカスフレームを選びます。

3 シャッターボタンを半押しします。

●半押ししなければ、8秒後に自動的にそのフレームになります。

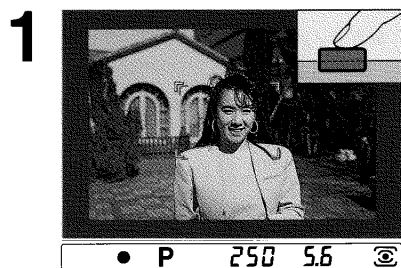
●AFレフレックス500mm F8およびAFパワーズーム35-80mm F4-5.6使用時には、中央のローカルフォーカスフレームのみ使用できます。

●Qボタンで一時的にフォーカスフレームを切り替えることができます。(P.48参照)

フォーカスロック撮影

被写体がフォーカスフレームと重ならないときは、被写体にピントを固定して撮影します。

シャッターボタンを使う方法

1

被写体にフォーカスフレームを合わせ、シャッターボタンを半押しします。

● ピントが固定され、ファインダー内のフォーカス表示(◉)が●に変わります。

2

シャッターボタンを半押ししたまま撮りたい構図にして撮影します。

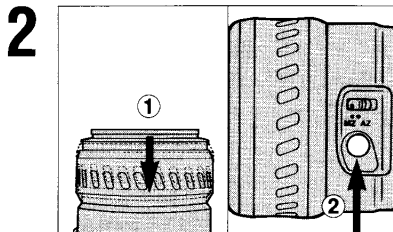
● 14分割ハニカムパターン測光時には、ピントと同時に露出も固定されます。
● 中央重点的平均測光、スポット測光時には、露出は固定されません。
● シャッターボタンから指を離すと、フォーカスロックは解除されます。シャッターを切った後も指を離さずにそのまま半押し状態に戻すと、フォーカスロックは解除されませんので、同じピント位置での撮影が続けられます。

注意
● フォーカス表示●が点灯しないとき(被写体が動いているときなど)は、フォーカスロックはできません。

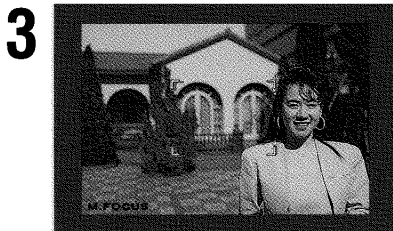
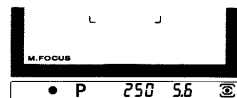
レンズのズームリングまたはレンズボタンを使う方法

(AFズームXiレンズ使用時のみ)

1 被写体にフォーカスフレームを合わせます。

2

レンズのズームリングを手前に引きます①。(または、レンズボタンを押します②。)

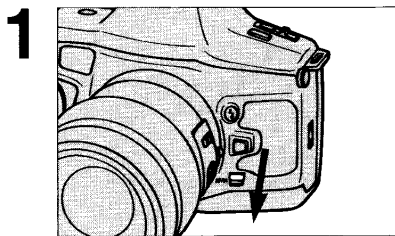
● ピントが固定され、ファインダー内のフォーカス表示(◉)が●に変わります。

3

ズームリングを手前に引いたまま(またはレンズボタンを押したまま)、撮りたい構図にして撮影します。

● 14分割ハニカムパターン測光時には、ピントと同時に露出も固定されます。
● 中央重点的平均測光、スポット測光時には、露出は固定されません。
● 撮影後もそのままの状態でいると、ピントは固定されたままになります。連続撮影などに適しています。
● フォーカスホールドボタン付きαレンズでも、フォーカスホールドボタンを押すと同様にピントが固定されます。

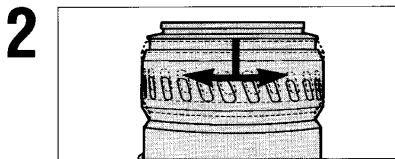
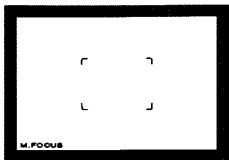
注意
● フォーカス表示●が点灯しないとき(被写体が動いているときなど)は、フォーカスロックはできません。

マニュアルフォーカス(手動ピント合わせ)

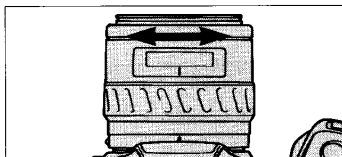
1

カメラのフォーカスモードスイッチを1回押し下げます。

● ファインダー表示部に"**M.FOCUS**"と表示されます。

2

<AFズームXiレンズ・AFパワーズームレンズの場合>

レンズのズームリングをカメラ側に引き、そのまま左右に回します。

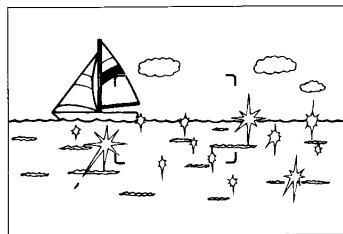
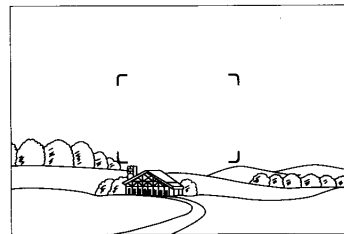
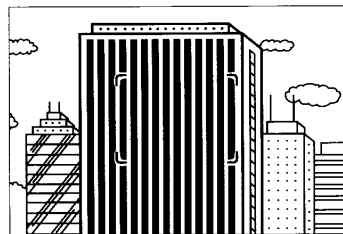
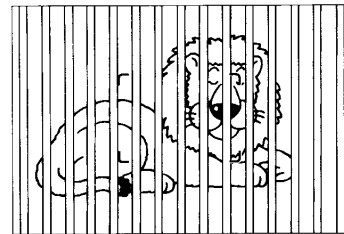
● ピントが合ったところで、ズームリングをもとの位置に戻してください。

<AFズームレンズ・AFレンズの場合>

レンズ先端のフォーカスリングを回します。

● オートフォーカスでピントが合うような被写体の場合は、ファインダー内のフォーカス表示●が点灯して、ピントが合ったことをお知らせします。
● Xiレンズの場合、フォーカスモードスイッチを押し下げなくてもピント合わせはできますが、手を離すとオートフォーカスに戻ります。

注意
● 14分割ハニカムパターン測光はオートフォーカスと連動しているため、マニュアルフォーカスにすると、同じ場面でも測光値が異なることがあります。

オートフォーカスの苦手な被写体

以下のような被写体ではオートフォーカスでピントが合いにくいことがあります。このような場合はフォーカスロック撮影(P.18)やマニュアルフォーカス(P.20)を行なってください。

太陽のように明るすぎるものや、車のボディ、水面など反射しているもの

青空など、明暗差(コントラスト)のないもの

フォーカスフレーム内が繰り返しパターーンの連続になっているとき

フォーカスフレーム内に距離の異なる2つのものがあるとき

撮影モードについて

このカメラでは、絞り値とシャッター速度を決める方法として以下の4通りの撮影モードがあります。同じシーンでも、絞り値やシャッター速度が変わると描写が変わります。

P(プログラム)モード

絞り値とシャッター速度が、それぞれの撮影シーンにもっとも適した値に自動的に決められます。また、前後のダイヤルを回すと、Pモードで露出を適正に保ったまま、希望の絞り値やシャッター速度を決めることができるイメージシフト(PAシフトまたはPSシフト)になります。Pモードではシャッターチャンスのみに専念することができ、しかもとっさに絞り値やシャッター速度を希望の値に変えることもできますので、スナップ写真などの一般撮影に最適です。

A(絞り優先)モード

希望の絞り値を決めることができます。シャッター速度は自動的に決まります。ポートレート撮影など、絞りの効果を生かして背景のぼけ具合いをコントロールしたいときに使います。

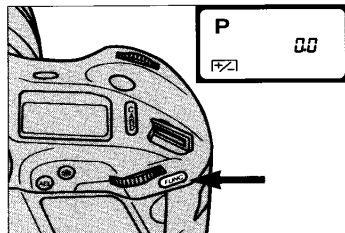
S(シャッター速度優先)モード

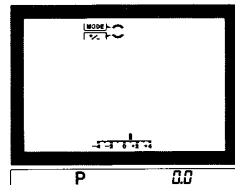
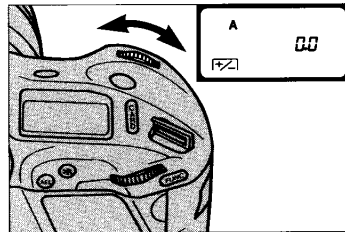
希望のシャッター速度を決めることができます。絞りは自動的に決まります。スポーツ撮影など、被写体の動きを止めて表現したいときや、逆に流動感を表現したいときに使います。

M(マニュアル)モード

絞り値とシャッター速度の両方を自由に決めることができます。フラッシュメーターなどの露出計で測った値で撮影することができます。

撮影モードの選び方

1

ファンクションボタンを押して撮影モード表示を出します。

● ボディ表示部とファインダー表示部が図のようになります。

2

前ダイヤルを回して撮影モードを選びます。

3

シャッターボタンを半押しします。

● 半押ししなければ、8秒後に自動的にその撮影モードになります。

P(プログラム)モード撮影

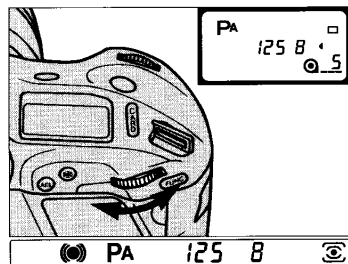
撮影シーンにもっとも適した絞り値とシャッター速度が自動的に決まりますので、被写体にのみ集中して撮影することができます。

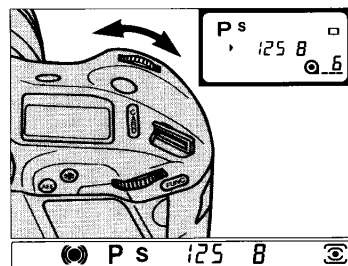
1 Pモードを選びます。

- 撮影モードだけをPモードにするときは、P.23の操作をします。
- Pモードを含め全自動の状態にするときは、プログラムセットボタンを押します。

2 構図を決めて撮影します。

イメージシフト(P_Aシフト・P_Sシフト)

Pモードで絞り値とシャッター速度が表示されているときにダイヤルを回すと、露出を適正に保ったままで、希望の絞り値またはシャッター速度を得ることができます。

後ダイヤルを回すと、P_Aシフトになります。

- 希望の絞り値を決めることができます。
- シャッター速度は自動的に決まります。
- ポートレート撮影など、絞りの効果を生かして背景のぼけ具合いをコントロールしたいときに使います。

前ダイヤルを回すと、P_Sシフトになります。

- 希望のシャッター速度を決めることができます。
- 絞り値は自動的に決まります。
- スポーツ撮影など、シャッター速度の効果を生かして被写体の速い動きを止めたいときや、逆に流動感を表現したいときに使います。

注意

- P_A・P_Sシフトにするときには、ファインダーをのぞいて絞り値とシャッター速度が表示されているときにダイヤルを回してください。
- フラッシュは使用できません。フラッシュが発光する場合は、P_A・P_Sシフトには切り替わりません。
- 表示部のシャッター速度または絞り値が点滅している場合は、適正露出が得られません。点滅しなくなるまでダイヤルを回してください(P.68参照)。

<P_A・P_Sシフトの解除>

P_A・P_Sシフトは以下のどれかの操作によって解除されます。

- 撮影モードを変える(P.23参照)。
- メインスイッチをLOCKにする。
- プログラムセットボタンを押す(この場合は撮影モード以外の設定も変わります)。

カメラから目を離し、何も操作をしないで30秒以上たったときも解除されます。

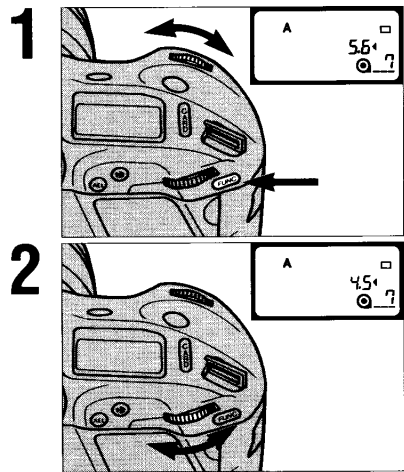
<P_A・P_SシフトとA・Sモードとの違い>

P_AシフトとAモード、P_SシフトとSモードは、基本的には同じですが、以下の点がそれぞれ異なっています。どちらか便利なほうを選んで撮影してください。

- P_A・P_Sシフトへは、Pモードで撮影中にダイヤル1つですぐに切り替えられます。
- A・Sモードではフラッシュが使えますが、P_A・P_Sシフトでは使えません。
- メインスイッチをLOCKにしたときや何も操作をしないで30秒以上たったときでも、A・Sモードはそのまま保持されますが、P_A・P_Sシフトは解除されます。

A(絞り優先)モード撮影

小さい絞り値(開放側)にすると背景をぼかした美しいポートレートが、大きい絞り値(最小絞り側)にすると奥行きのある風景など背景までピントのあった写真が撮れます。

1

Aモードを選びます(P.23参照)。

- ボディ表示部の絞り値の横の◀が点灯し、絞り値が変更できることを示します。

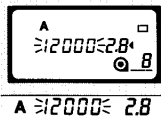
2

後ダイヤルを回して、希望の絞り値を選びます。

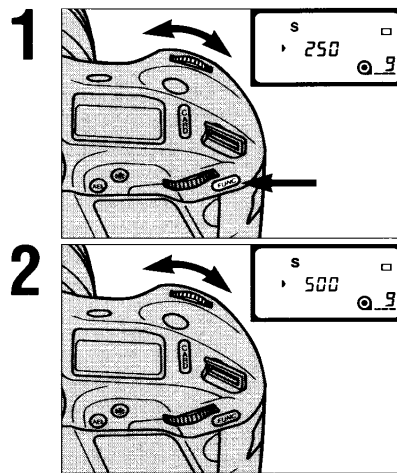
3 構図を決めて撮影します。

注意

- 表示部のシャッター速度が点滅している場合は、適正露出が得られません。点滅しなくなるまで絞り値を変更してください(P.68参照)。

A 12000 2.8

S(シャッター速度優先)モード撮影

速いシャッター速度にすると、動いている被写体をシャープに写し止めることができ、遅いシャッター速度にすると、被写体の動きをぶらして流れるような動きを表現することができます。

1

Sモードを選びます(P.23参照)。

- ボディ表示部のシャッター速度の横の▶が点灯し、シャッター速度が変更できることを示します。

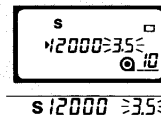
2

前ダイヤルを回して、希望のシャッター速度を選びます。

3 構図を決めて撮影します。

注意

- 表示部の絞り値が点滅している場合は、適正露出が得られません。点滅しなくなるまでシャッター速度を変更してください(P.68参照)。
- バルブ(長時間露出)はMモードで設定してください。
- フラッシュ同調速度(1/300秒)は、専用フラッシュ使用時にのみ設定できます。

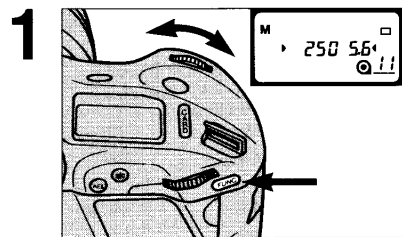
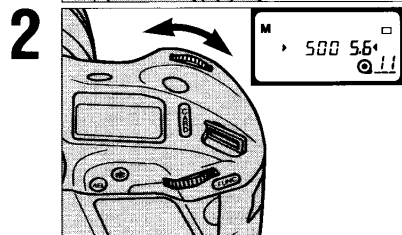
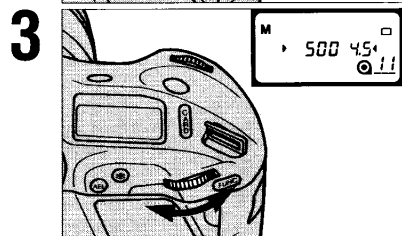
S 12000 3.5

M(マニュアル)モード撮影

撮影者の思い通りに露出をコントロールすることができます。カメラが測光した値との差が測光インジケーター上に表示されます。

1 Mモードを選びます(P.23参照)。

2

前ダイヤルを回して、希望のシャッター速度を選びます。

3

後ダイヤルを回して、希望の絞り値を選びます。

4 構図を決めて撮影します。

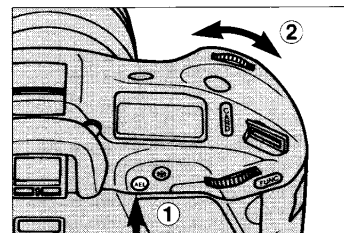
注意
- フラッシュ同調速度(1/300秒)は、専用フラッシュ使用時にのみ設定できます。

Mモードでは、ファインダー内の測光インジケーターが、撮影者が設定した露出値とカメラが測光した値(各測光方式による)との差をお知らせします。

測光インジケーター	ファインダー表示部	
−4 −2 0 +2 +4	M 250 5.6	：適正露出です。
−4 −2 0 +2 +4	M 180 + 4.5	：露出オーバーになります。(1段)
−4 −2 0 +2 +4	M 500 − 6.7	：露出アンダーになります。(1.5段)

- ▮が2つ表示されたときは、その間の値になります。
- ±4.5段以上になった場合、+4または−4のところで▮が点滅します。

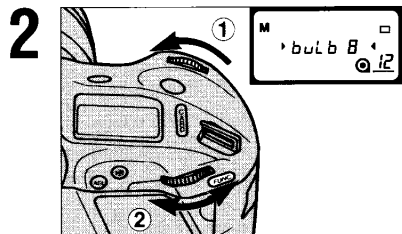
マニュアルシフト

Mモードで露出を固定したまま絞り値とシャッター速度の組み合わせを変えることができます。

AEロックボタンを押しながら①前ダイヤルを回します②。

バルブ(長時間露光)撮影

シャッターボタンを押している間、シャッターは開いたままになります。長時間の露光が必要なときに使用します。

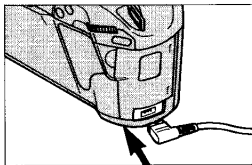
1 撮影モードをMモードにします(P.23参照)。

2

前ダイヤルを回して"bulb"を選び①、後ダイヤルを回して希望の絞り値を選びます②。

3 シャッターボタンを押し込みます。必要とする露光時間中押し続けてください。

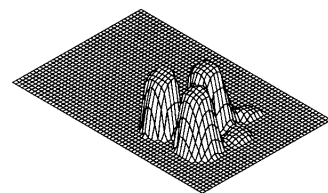
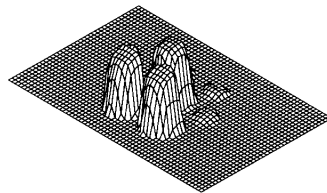
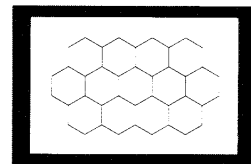
● シャッターボタンから指をはなすと、シャッターが閉じ、撮影が終了します。

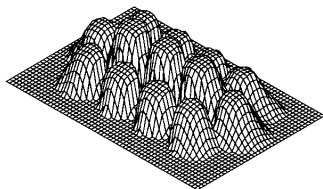
注意
● 手ぶれを防ぐために、三脚をお使いください。
● ファインダーからの逆入光を防ぐために、付属のアイピースキャップを取り付けることをおすすめします(P.41参照)。

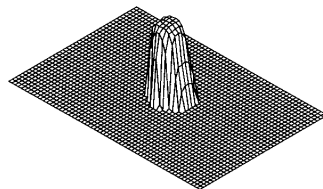
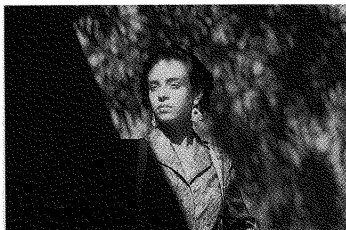
● リモートコードRC-1000S/L(別売)を使うと、手ぶれの防止に役立つとともに、シャッターボタンを押した状態で固定できます。カードホルダーを開け、リモートレリーズターミナルのカバーをはずしてお使いください。

測光方式について

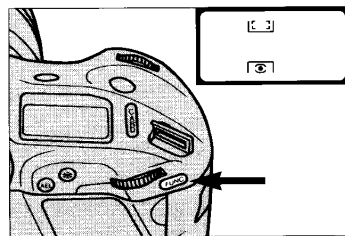
このカメラでは、撮影目的や光線の状態によって3つの測光方式を選ぶことができます。

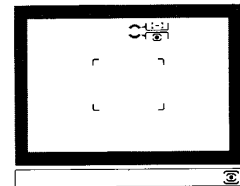
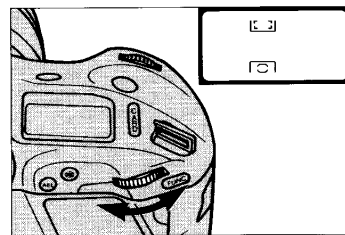
14分割ハニカムパターン測光(◉)

画面全体を14分割した多分割測光を行ないます。画面内には13個のハニカム(ハチの巣)形状の測光素子と、その周囲との合計14個の測光素子が配置されています。これらの素子はオートフォーカスと連動しているので、画面内のどこに被写体があってもカメラがその位置と明るさを的確に判断し、露出を決定します。目で見た感じに一番近く撮れる測光方式で、ほとんど露出補正の必要はありません。逆光撮影を含む一般撮影に適しています。

中央重点的平均測光(⊂⊃)

画面の中央部を重点的に、画面全体の明るさを測光します。逆光のときや被写体が画面中央にない場合などは、露出補正が必要となります。

スポット測光(•)

画面中央部のスポット測光フレーム内のみを測光します。コントラスト(明暗差)の大きい被写体や、画面のある特定の部分だけを測光するのに適しています。測光したい部分が画面中央にないときは、AEロック撮影(P.38)を行なってください。

測光方式の選び方

1

ファンクションボタンを2回押して測光方式表示を出します。

- ボディ表示部とファインダー表示部が図のようになります。

2

後ダイヤルを回して、希望の測光方式を選びます。

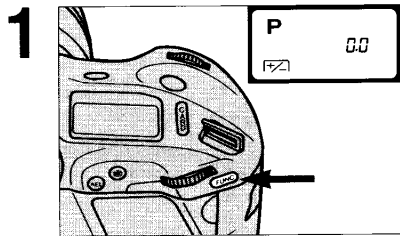
3 シャッターボタンを半押しします。

- 半押ししなければ、8秒後に自動的にその測光方式になります。

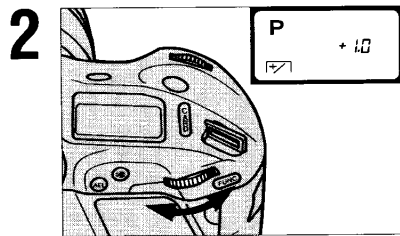
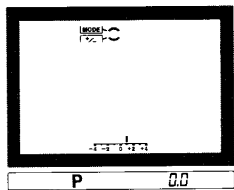
- Qボタンで一時的にスポット測光に切り替えることができます。(P.48参照)

露出補正

撮影目的や光線状態によって、意図的に露出を補正して撮影することができます。

1

ファンクションボタンを押して露出補正表示を出します。

- ボディ表示部とファインダー表示部が図のようになります。
- ファインダー内に測光インジケーターが表示されます(次ページ参照)。

2

後ダイヤルを回して、希望の補正値を選びます。

3 シャッターボタンを半押しします。

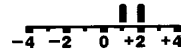
- 測光インジケーターが消えます。
- 半押ししなければ、8秒後に自動的にその補正値になります。
- Mモードの場合、設定した露出補正値だけ測光インジケーターも補正されます。

露出補正時の測光インジケーターの使い方(P、A、Sモード時のみ)

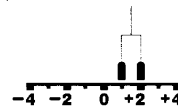
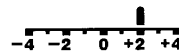
ファンクションボタンを押して露出補正ができる状態(露出補正表示が出ている状態)にすると、ファインダー内に測光インジケーターが表示されます。

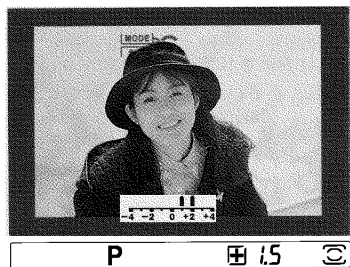
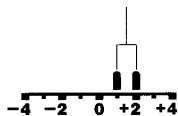
- ▮が2つ表示されたときは、その間の値になります。
- ±4.5段以上になった場合、+4または−4のところで▮が点滅します。

(例 +1.5段)

−4 −2 0 +2 +4

<14分割ハニカムパターン測光の場合>

測光インジケーターは、中央重点的平均測光での露出値を基準(0)にして、14分割ハニカムパターン測光による露出値(▮)を表示します。従来の中央重点的平均測光に馴れておられる方に、14分割ハニカムパターン測光ではこのシーンをどう判断しているかをお知らせします。意図的に露出を補正する場合の参考にご利用ください。

14分割ハニカムパターン測光での露出値(中央重点的平均測光での露出値との差)

上の状態で露出補正をかけると、この表示(▮)も同時に移動します。(例 0.5段オーバー側に露出補正をかけた場合)

<中央重点的平均測光の場合>

測光インジケーターは、撮影者が設定した露出補正量を表示します。(測光インジケーターと、ファインダー表示部下部の露出補正表示が示す値は常に同じです。)

<スポット測光の場合>

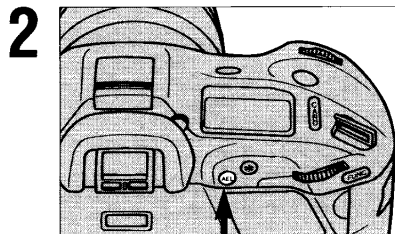
ファンクションボタンを押しても測光インジケーターは表示されません。スポット測光での測光インジケーターの使い方については、P.38をご覧ください。

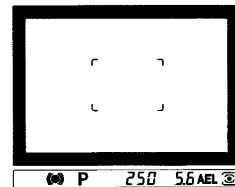
AEロック撮影(露出の固定)

AEロックボタンを押すと、そのときの測光値に基づいて露出が固定されます。測光したいものとピントを合わせたいものが異なる場合や、露出を一定にしたまま連続撮影する場合などに使用します。

14分割ハニカムパターン測光・中央重点的平均測光の場合

1 測光したいものにピントを合わせます。

2

AEロックボタンを押します。

- ファインダー内の**AEL**が点灯し、測光値を固定したことをお知らせします。

3 AEロックボタンを押したまま、被写体にピントを合わせ直して撮影します。

- 同じ露出で連続して撮影する場合は、AEロックボタンを押し続けてください。

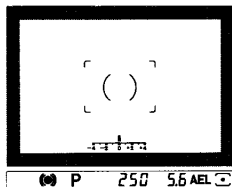
- P、Sモード時には、AEロックボタンを押している間も、前ダイヤルを回して、同じ露出のままシャッター速度と絞り値の組み合わせを変更することができます。

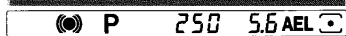
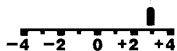
＊AEとはAuto Exposureの略で、自動露出のことです。

スポット測光の場合

1 測光したいものにスポット測光フレームを合わせます。

2 AEロックボタンを押します。

- ファインダー内のAELが点灯し、測光値を固定したことをお知らせします。
- ファインダー内に、測光インジケーターが表示されます。固定された測光値が、インジケーター上の基準位置(0)に表示されます。

3 AEロックボタンを押したまま、構図を変えます。

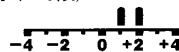
- 2で固定された測光値を基準(0)にして、構図を変えた後のスポット測光フレーム内の測光値が、インジケーター上の▮で表されます。
  左の例では、背景のハイライト部分は人物の顔よりも3段明るいことを意味します。

構図を変えた後の測光値
(固定した測光値との差)

4 シャッターボタンを押し込んで撮影します。

- 同じ露出で連続して撮影する場合は、AEロックボタンを押し続けてください。

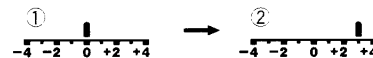
<スポット測光時の測光インジケーターについて>

◆スポット測光でAEロックボタンを押している間、ファインダー内に測光インジケーターが表示されます。

- ▮が2つ表示されたときは、その間の値になります。
- ±4.5段以上になった場合、+4または-4のところで▮が点滅します。

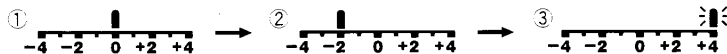
(例 +1.5段)

◆測光インジケーターを使うと、前ページの要領で、画面内のある特定の部分の明るさの差を測ることができます。

(例1)
①でAEロックボタンを押して露出を固定、その後AEロックボタンを押したまま②へ構図を変える。

測光インジケーター

背景のハイライト部分②は人物の顔①よりも3段明るい

(例2)
①でAEロックボタンを押して露出を固定、その後AEロックボタンを押したまま②、③へ構図を変える。

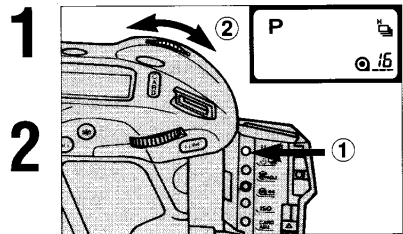
測光インジケーター

(▮が点滅)

③の部分は②よりも6.5段以上明るい

連続撮影

シャッターボタンを押し続けている間連続撮影ができます。連続撮影H(毎秒最高4.5コマ撮影)と連続撮影L(毎秒2コマ撮影)のいずれかが選べます。

1

2

カードホルダー内のセルフタイマー／巻き上げモードボタンを押します①。

前ダイヤルを回して希望のモードを選びます②。

：連続撮影 H

：連続撮影 L

3 セルフタイマー／巻き上げモードボタンをもう一度押します。

●押さなければ、4秒後に自動的にそのモードになります。

注意

●このカメラはオートフォーカス優先です。連続撮影に設定していてもピントが合うまではシャッターは切れませんので、設定した速さで連続撮影ができないことがあります。設定した速さを優先させたいときは、レリーズ優先(P.51)にしてください。

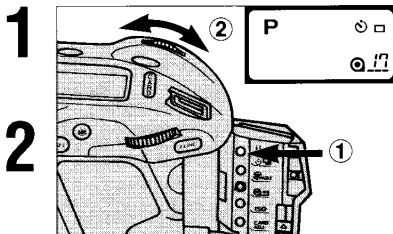
●連続撮影中は、パワーズームはできません。

●Qボタンで一時的に1コマ撮影と連続撮影を切り替えることができます。(P.48参照)

セルフタイマー撮影

シャッターボタンを押してから約10秒後に撮影されます。

1

2

カードホルダー内のセルフタイマー／巻き上げモードボタンを押します①。

前ダイヤルを回して、マークを表示させます②。

3 セルフタイマー／巻き上げモードボタンをもう一度押します。

●押さなければ、4秒後に自動的にセルフタイマーになります。

4 ピントを合わせ、シャッターボタンを押し込みます。

●撮影までの間、セルフタイマーランプが点滅します。

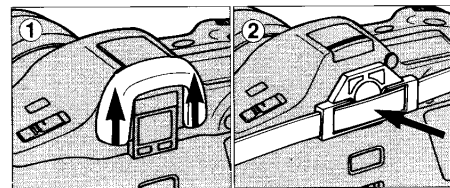
●撮影が終わると、セルフタイマーは自動的に解除されます。

●作動中のセルフタイマーを止めるには、メインスイッチをLOCKにしてください。

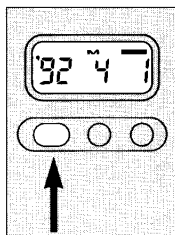
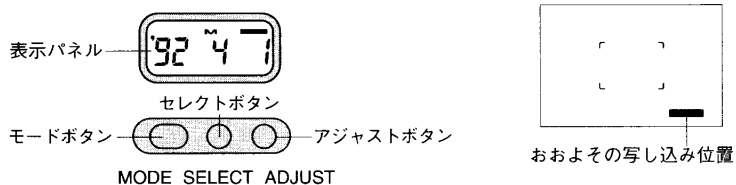
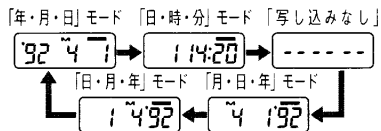
注意

●ファインダーから目を離してシャッターを切るときは、アイピースキャップを付けることをおすすめします。(アイピースキャップはストラップに付いています。下図参照)

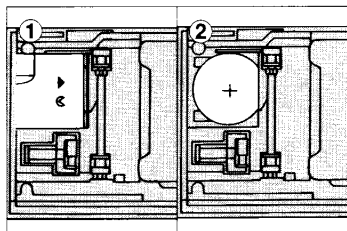
●いっきにシャッターボタンを押し込まないでください。ピントが合わないことがあります。

●アイピースキャップの取り付け方
アイピースカップを下から押し上げるようにして外し①、アイピースキャップをはめ込みます②。

日付・時間の写し込み

撮影時の日付や時間を写し込むことができます。このカメラには2019年までの日付が記憶されています。

おおよその写し込み位置

モードボタンを押して、写し込みたい表示を選びます。

注意
- 写し込み位置に明るい色(空や白い壁など)があると、文字が読みにくくなることがあります。

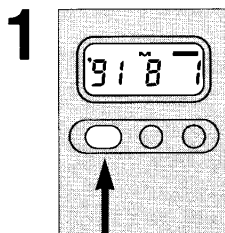
電池の交換

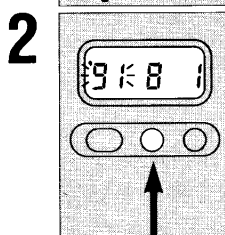
写し込んだ文字が薄かったり、表示パネル全体が点滅している場合は、電池を交換してください。(使用電池：CR2025 1個)

電池室のふたを▶の方向に押して開けます①。
電池を十側を上にして入れ、ふたを閉めます②。

- ふたは右部を差し込んでから、左側へ押し込みます。
- 電池交換後は、日付等を修正してください。

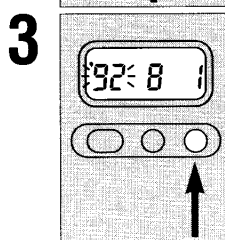
日付・時間の修正

通常は必要ありませんが、必要なときは以下の手順で行なってください。

1

モードボタンを押して、修正したい表示を選びます。

2

セレクトボタンを押して、修正したい数字を点滅させます。

- セレクトボタンを押すたびに、年→月→日または時→分→： の順に点滅する数字が変わります。

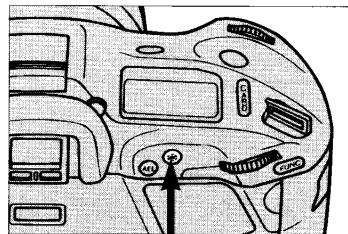
3

アジャストボタンを押して、正しい数字に合わせます。

- アジャストボタンを押し続けると、数字は連続的に変わります。
- 秒を時報に合わせるには、：を点滅させ、時報に合わせてアジャストボタンを押します。

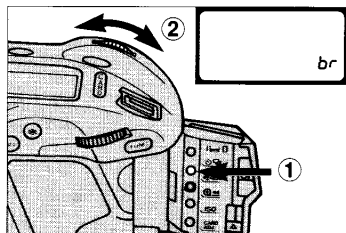
4 数字が点滅しなくなるまで、セレクトボタンを押します。

- 表示パネルの「—」が点灯し、撮影できる状態になります。

Q(クイック)ボタン

Q(クイック)ボタンには、6つの機能のうちの1つが設定できます。ボタンを押している間だけその機能が働きます。

br: ブラケット機能(Bracket)
Fb: フラッシュブラケット機能(Flash Bracket)
ME: 多重露光機能(Multiple Exposure)
dr: 巻き上げモード切り替え機能(Drive)
SP: スポット測光機能(Spot)
AF: フォーカスエリア切り替え機能
--: 機能なし(押しても何も変わりません。)

各機能の設定

1 カードホルダー内のQアジャストボタン(◉Adj.)を押します①。

2 前ダイヤルを回して、設定したい機能を選びます②。

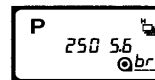
3 Qアジャストボタンをもう一度押します。
- 押さなければ、4秒後に自動的にその機能が設定されます。

- 撮影中にQアジャストボタンを押すと、現在設定されている機能がボディ表示部に表示されます。
- インテリジェントカードも同時に使うことができます(P.61～63参照)。

ブラケット機能(br)

Qボタンを押しながら撮影すると、露出ずらしをしながら3枚の連続写真が撮れます。露出ずらし量は0.5段、撮影は－0.5、0、＋0.5の順に行なわれます。

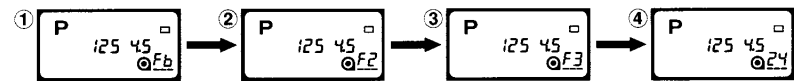
1 Qボタンを押します。
- 連続撮影Hに自動的に設定されます。

P 250 5.6 ◉br

2 Qボタンを押したまま、シャッターボタンを押し続けます。
- 3枚撮影し終わると、自動的に連続撮影は止まります。

注意
- 3枚目の撮影が終わるまで、シャッターボタンから指を離さないでください。
- フラッシュは使用できません。

- ピントと基準露出値(±0)は1枚目の撮影時に固定されます。
- PAシフト、Aモードではシャッター速度が、PSシフト、Sモードでは絞り値が、Pモードではその両方が変化して露出ずらしを行ないます。途中で絞り値やシャッター速度が限界値に達した場合は、その限界値で撮影を続けます。

フラッシュブラケット機能(Fb)

フラッシュを使って3枚の露出ずらし撮影を行なうときに使用します。露出ずらし量は0.5段、撮影は－0.5、0、＋0.5の順に行なわれます。

1 フラッシュを取り付けます。

●xiおよびiシリーズフラッシュは自動的にONになります。AFシリーズフラッシュはONにしてください。

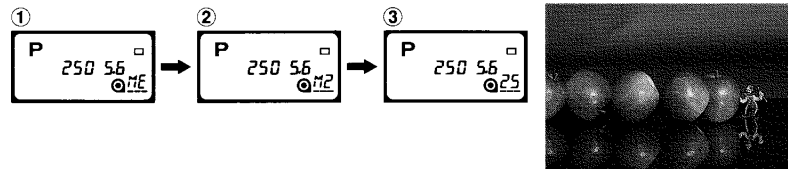
2 Qボタンを押しながら(ボディ表示①)シャッターボタンを押し、1枚目の撮影を行ないます②。

3 フラッシュの充電が完了した後、それぞれ2、3枚目の撮影を行ないます③④。

●2、3枚目は、Qボタンを押さなくても撮影できます。
●3枚撮り終える前に撮影を止めたいときは、カードホルダー内のQアジャストボタンを押してください。メインスイッチをLOCKにしてもフラッシュブラケットは解除されません。
●露出ずらしはフラッシュの発光量を変えることにより行なわれます。プログラムフラッシュ5400xi、5200i、4000AFのマニュアルフラッシュ撮影では絞り値が変化します。
●途中で発光量や絞り値が限界値に達した場合は、その限界値で撮影を続けます。

注意
●P、A、Sモードでは、フラッシュを取り付けていないときはシャッターは切れません。(ボディ表示部に"On FL"が点滅してお知らせします。)Mモードでは、シンクロターミナルを使って接続したフラッシュも使用できます。

多重露光機能(ME)

Qボタンを押しながら撮影すると、フイルムは巻き上げられません。1コマ上に何回でも多重露光が行なえます。

例：1コマに2回の露光を行なう場合

1 Qボタンを押しながら(ボディ表示①)シャッターボタンを押します②。

●1回目の露光が行なわれ、ボディ表示部に"M2"と表示されます。フイルムは巻き上げられません。

2 Qボタンを押さずにシャッターボタンを押します③。

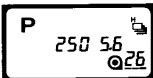
●2回目の露光が行なわれ、フイルムが巻き上げられます。

●1コマに3回以上の露光を行なう場合は、1の操作を繰り返してください。
●シャッターを切らずにフイルムを巻き上げたいときは、カードホルダー内のQアジャストボタンを押してください。
●連続撮影、セルフタイマーの使用もできます。
●多重露光の途中でメインスイッチをいったんLOCKにすることもできます。

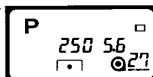
注意
●背景や被写体が重なる場合は、露出補正を行なってください。

巻き上げモード切り替え機能(dr)

Qボタンを押している間だけ、巻き上げモードが以下のように切り替わります。

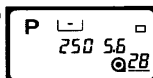
ボタンを押す前		ボタンを押している間
1コマ撮影	→	連続撮影H
連続撮影H	→	1コマ撮影
連続撮影L	→	1コマ撮影

● セルフタイマーは使用できません。

スポット測光機能(SP)

14分割ハニカムパターン測光または中央重点的平均測光中にQボタンを押すと、押している間だけスポット測光に切り替わります。

●Qボタンを押すと、同時に露出も固定されます(＝AEロック)。

● フラッシュは使用できません。

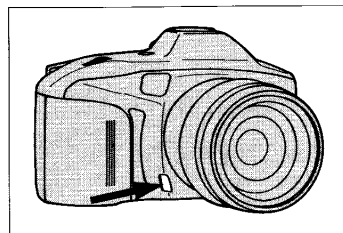
フォーカスエリア切り替え機能(AF)

Qボタンを押している間だけ、フォーカスフレームが以下のように切り替わります。

ボタンを押す前		ボタンを押している間
ワイドフォーカスフレーム	→	中央のローカルフォーカスフレーム*
ローカルフォーカスフレーム	→	ワイドフォーカスフレーム

*Qボタンを押しながら前ダイヤルを回すと、一時的に各ローカルフォーカスフレームが選択できます。

● ワイドビューファインダーは使用できません。

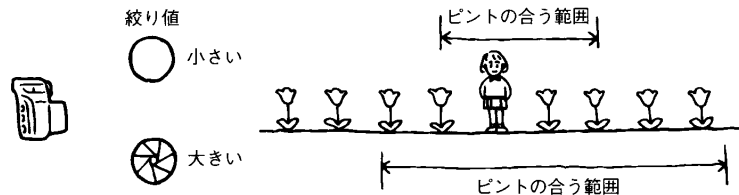
プレビュー(絞り込み)

ファインダー内には、通常は絞りが開放の状態の像が見えています。プレビューボタンを使うと、撮影のときの絞りまで絞り込まれるので、撮影前にあらかじめ被写界深度*の状態を確認することができます。

プレビュー(絞り込み)ボタンを押します。

● 押している間、表示されている絞り値まで絞りが絞り込まれます。ピントと露出は固定されます。

● プレビューボタンを押したまま、シャッターボタンを押して撮影することができます。押している間は、他の機能は変更できません。

● プレビュー時には、アキュートマット(焦点板)の特性上、ファインダー中央部が陰ることがあります。

*被写界深度とは、ピントを合わせた被写体の前後で、実用上写真としてピントが合って写る範囲のことをいいます。F1.4、F2など絞り値が小さい(絞りが開放側になる)ほど、ピントの合う範囲(被写界深度)は狭くなり、被写体の前後がボケて写ります。F22、F32など絞り値が大きい(絞りが絞り込まれる)ほど、ピントの合う範囲は広くなります。

フィルム感度の設定と変更

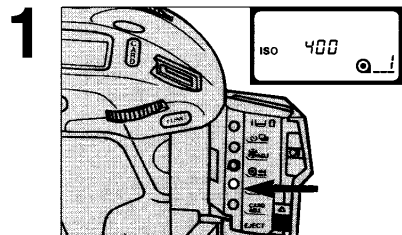
DXコード付きフィルムのとき

通常は感度の設定は必要ありません。

● フィルムに付いているDXコードをカメラが読み取り、自動的に設定します。

DXコードの付いていないフイルムや、フイルム感度を変更して使用するとき

以下の要領でフイルム感度の設定および変更を行なってください。

1

カードホルダー内のフイルム感度設定ボタンを押します。

● ボディ表示部とファインダー表示部に現在のフイルム感度が表示されます。

2 前ダイヤルを回して、希望のフイルム感度を選びます。

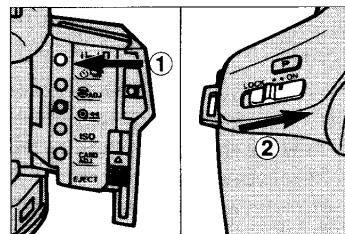
3 フイルム感度設定ボタンをもう一度押します。

● 押さなければ、4秒後に自動的にそのフイルム感度になります。

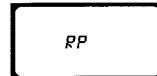
● 設定可能なフイルム感度は、ISO6～6400です。

● 撮影中でもフイルム感度設定ボタンを押せば、フイルム感度を確認することができます。

レリーズ優先モード

このカメラでは、ピントが合うまでシャッターは切れません。ピントが合わなくてもシャッターが切れるようにしたいときは、レリーズ優先モードに設定してください。

カードホルダー内のセルフタイマー／巻き上げモードボタンを押しながら①、メインスイッチをLOCKからONにします②。

● ボディ表示部に“RP”(Release Priority＝レリーズ優先)と表示されます。

RP

● レリーズ優先モードにすると、メインスイッチをLOCKからONにするたびにボディ表示部に“RP”と表示されます。

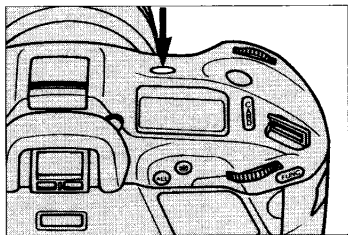
● 再度同じ操作をすると“AFP”(Autofocus Priority＝オートフォーカス優先)と表示され、ピントが合うまでシャッターが切れなくなります。

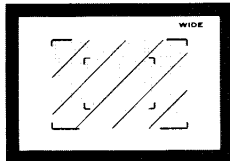
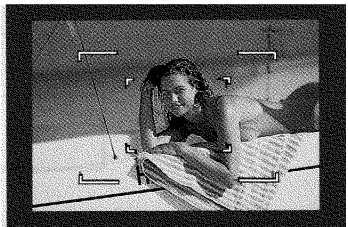
AFP

ワイドビューファインダー(撮影画面枠外表示)

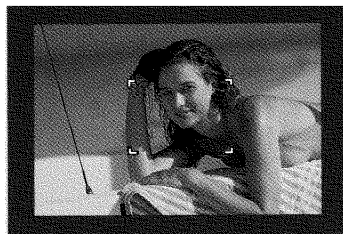
(AFズームXiレンズ使用時のみ)

実際に撮影する画面の周囲の状況が、ファインダーを通して確認できます。

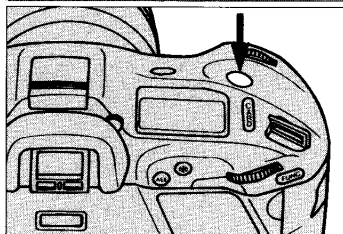
1

ワイドビューファインダーボタンを押します。

- レンズがワイド(広角)側にズームします。
- ファインダー内にワイドビューファインダー撮影画枠が表示されます。この範囲内のもの(斜線部)が撮影されます。

2

希望の大きさにズームします。

- ワイドビューファインダーの性格上、ズームの範囲には制限があります。

3

シャッターボタンを半押しします。

- レンズがテレ(望遠)側にズームし、実際に撮影される画面になります。

4

シャッターボタンを押し込んで撮影します。

- フォーカスフレームは自動的にワイドフォーカスフレームになります。
- 解除するときは、もう一度ワイドビューファインダーボタンを押してください。

注意

- ワイドビューファインダー中には、プレビューはできません。(シャッターボタンを半押しして撮影画面に戻っているときはできます。)
- パノラマ撮影時には、ワイドビューファインダーは使用できません。

応用編2

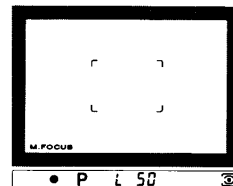
この章では、レンズやフラッシュなどのアクセサリーを使った機能の操作方法や撮影方法を説明しています。各種アクセサリーを使用されるときはこの章もお読みください。

レンズ

αレンズが豊富にそろっていますので、さまざまな撮影領域に対応することができます。

◆すべてのミノルタαレンズが使用できます。それ以外のMDレンズやMCレンズなどはご使用になれません。

◆パワーズーム、パワーフォーカス、ワイドビューファインダーは、AFズームXiレンズでのみ使用できます。(AFパワーズームレンズでは、パワーズーム、パワーフォーカスのみできます。)

◆AFズームXiレンズ、AFパワーズームレンズをご使用の場合、カメラを構えているときにレンズのズームリングを手前に引くと、ボディ表示部とファインダー表示部に現在の焦点距離が表示されます。

◆AFズームXiレンズ(28-80mm F4-5.6以外)をご使用の場合、AZ/MZスイッチをMZ位置にしていても使用できます。このときのズーミングのしかたについては、レンズの使用説明書の「α-Xiカメラ以外のαシリーズカメラをお使いのときのズーミングのしかた」をご覧ください。

◆レンズとカメラ間の交信が正しく行なわれていない状態(レンズが取り外されているときや正しく取り付けられていないとき、またはAFレンズ信号接点が汚れているときなど)では、絞り値表示が“- -”になり、フイルムが入っている場合は、誤動作を防ぐためシャッターが切れない仕組みになっています。したがって、天体望遠鏡などにカメラを取り付けたときはシャッターが切れませんので、お近くのサービスセンターまたはサービスステーションにお問い合わせください。

フラッシュ撮影

α-9Xiに専用フラッシュを取り付けると、さまざまなフラッシュ撮影を簡単に行なうことができます。

使用できるフラッシュ

■ミノルタXiシリーズフラッシュ(5400Xi, 3500Xi)、およびi シリーズフラッシュ(5200i, 3200i, 2000i)

そのままご使用になれます。ただし、ワイヤレスフラッシュは以下のどちらかとの組み合わせで行なってください。

①Xiシリーズフラッシュを2台(以上)使用する。ただし、1台は5400Xiを使用すること。

②Xiシリーズフラッシュ1台(以上)とワイヤレスフラッシュリモコンを使用する。

①については5400Xiの使用説明書を、②についてはワイヤレスフラッシュリモコンの使用説明書をご覧ください。

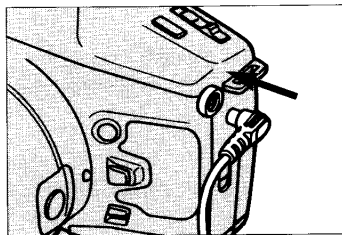
■AFシリーズフラッシュ(4000AF, 2800AF, 1800AF, マクロ1200AF)

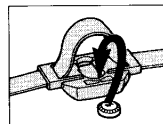
フラッシュシューアダプターFS-1100(別売)を使って取り付けてください。この場合、以下の制限があります。

- フラッシュの電源スイッチをONにしてご使用ください。自動発光は行なわれません。
- フラッシュのAF補助光は発光しません。
- Qボタンでブラケットか測光方式を選択しているときはOFFに、フラッシュブラケットを選択しているときはONに設定してください。(間違えるとボディ表示部に"On FL"または"OFF FL"が点滅してお知らせします。)

■Xシリーズのフラッシュおよびそれ以前に発売されたフラッシュ

使用できません。

<シンクロターミナル>

このカメラにはシンクロターミナルが付いているので、シンクロコード付きフラッシュが使えます。この場合、撮影モードをMモードにしてシャッター速度を1/250秒以下に設定してください。

● シンクロターミナルのキャップは、図のようにアイピースキャップに収納できます。

注意

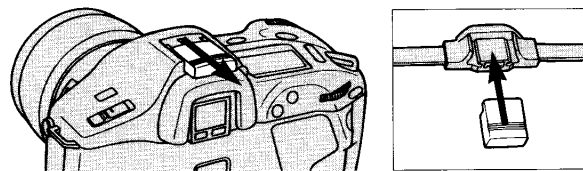
● シンクロ端子の極性が逆のフラッシュ*は使用できません。このようなフラッシュをこのカメラに接続しても、フラッシュは発光しません。これらのフラッシュを使用されたい方は、お近くの当社サービスセンターまたはサービスステーションにお問い合わせください。

*フラッシュのシンクロ端子の極性は、ほとんどが下のAタイプですが、中にはBタイプのものがあります。Bタイプが極性が逆のフラッシュです。

Aタイプ

Bタイプ

<アクセサリーシューキャップ>

フラッシュを使うときは外してお使いください。また、図のようにストラップに収納できます。

撮影モード別フラッシュ撮影

■ Pモード

フラッシュは自動発光します。フラッシュ強制発光ボタンを押しながら撮影すると、常にフラッシュは発光します。フラッシュをOFFにすると発光しません。シャッター速度と絞り値は自動的に設定されます。

■ Aモード

フラッシュをONにしていると常に発光します。絞り値はレンズの範囲内で自由に選べます。シャッター速度は同調速度(1/300秒)以下に自動的に設定されます。

■ Sモード

フラッシュをONにしていると常に発光します。シャッター速度は同調速度(1/300秒)以下の範囲で自由に選べます。絞り値は自動的に設定されます。

■ Mモード

フラッシュをONにしていると常に発光します。シャッター速度は同調速度(1/300秒)以下の範囲で、絞り値はレンズの範囲内で自由に選べます。

- 自動発光・強制発光を問わず、逆光・スローシンクロ撮影時には自動的に露出補正が行なわれ、適正露出になります。
- 撮影方法についてはフラッシュの使用説明書をご覧ください。

＜ファインダー内表示＞

- フラッシュが発光する場合は、 が点灯します。
- フラッシュの充電が完了すると、ϟが点灯します。点灯してから撮影してください。
- 適正露出が得られると、撮影後ϟが2秒間点滅します。

日中シンクロ撮影

逆光で人物撮影等を行なうと､被写体に露出を合わせるため背景が白くとんでしまいがちです。このような場合にフラッシュ撮影を行なうと、被写体と背景の両方をきれいに写すことができます。

■ Pモード

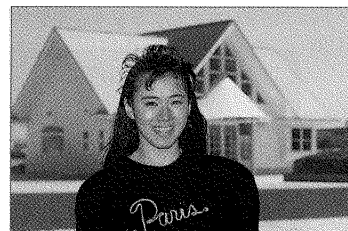
フラッシュをAUTO ONにしていると、カメラが被写体の状況を判断して自動的に発光し、日中シンクロ撮影となります。フラッシュを必ず発光させたいときは、強制発光ボタンを押しながら撮影してください。

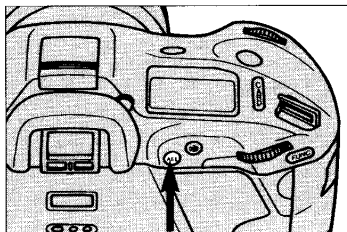
■ A、S、Mモード

フラッシュをONにすると、必ず発光します。

- Aモードでは、背景が非常に明るい場合や設定した絞り値によっては、露出オーバーになる可能性があります。

フラッシュを使わずに撮影

フラッシュを使って撮影

スローシンクロ撮影

夜景を背景にして撮影する場合など、通常のフラッシュ撮影では手前の人物はきれいに写し出されますが、フラッシュの届かない背景は黒くつぶれてしまいます。このような場合は、スローシンクロ撮影(シャッター速度の遅いフラッシュ撮影)をすると、人物も背景もきれいに撮ることができます。
P、Aモードでは次のようにしてスローシンクロ撮影ができます。

AEロックボタンを押しながら撮影します。
● シャッター速度が遅くなるので、三脚を使用してください。

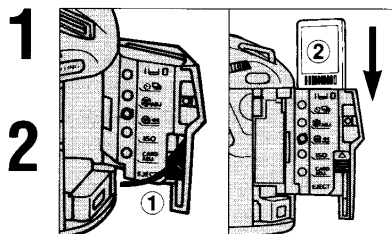
通常のフラッシュ撮影

スローシンクロ撮影

インテリジェントカード

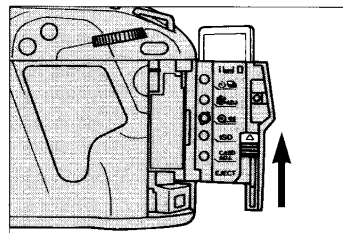
インテリジェントカードを使用すると、高度なテクニックを使った写真を簡単に撮ったり、撮影目的に応じてカメラの機能を広げたりすることができます。

このカメラは、α-8700i/α-7700i用のカスタムカードとα-5700i用のA/Sモードカードを除くすべてのカードが使用できます。

<カードの入れ方>

1 メインスイッチをONにして、カードホルダーを開けます①。

2 信号接点を手前にしてカードを入れます②。
● ボディ表示部にCARDと表示されます。

3 カードホルダーを閉めます。
● カードを入れたままでカードを機能させないときには、カードキーを押して、ボディ表示部のCARDを消してください。

<カードの取り出し方>

カードホルダーを開け、カードイジェクト(取り出し)レバーを押し上げます。

＜9Xiでカードを使用するときの注意＞

9Xi ／ カード	通常時	Q(クイック)ボタン使用時の追加注意事項					
		ブラケット	フラッシュブラケット	多重露光	巻き上げ	測光方式	フォーカスフレーム
旅	△1,2	○	○	○	○	○	○
子供	○	△16	○	○	○	○	○
スポーツ	○	○	○	○	○	○	○
スポーツ2	○	△16	○	○	○	○	○
ポートレート	○	○	○	○	○	○	○
記念撮影(オートデプス)	△2	○	△17	○	○	○	○
クローズアップ	○	○	○	○	○	○	○
流し撮り	△3	−	−	○	○	○	○
インターバル	○	−	−	△18	○	○	○
背景描写制御	△4	○	−	○	○	○	○
多重露光	△5,6	−	−	△19	○	○	○
オートブラケット	△5,7	−	−	○	−	○	○
フラッシュブラケット	△5,8	−	−	○	−	−	○
オートブラケット2	△8	−	−	○	−	○	○
データメモリー	△5,9	○	○	△20	○	○	○
データメモリー2	○	○	○	△20	○	○	○
ファンタジー	△10	−	−	○	○	○	○
ファンタジー2	△11	−	−	○	○	○	○
オートシフト	△5,12	−	−	○	−	○	○
オートシフト2	○	−	−	○	−	○	○
マルチスポット	△13,14	○	−	○	○	△21	○
ハイライト・シャドー	△13	△22	−	△22	△22	△21	△22
A/Sモード	×	×	×	×	×	×	×
カスタムXi	△15	○	○	○	○	○	○
カスタム	×	×	×	×	×	×	×

○： 使用できます。
△： 以下の制限付きで使用できます。
×： 使用できません。
−： Qボタンの機能は使えません。カード機能が優先されます。ボディ表示部に“CArd”が点滅してお知らせします。

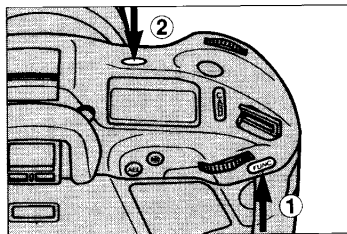
1： 9XiではASZ(オートスタンバイズーム)は作動しません。
2： レリーズ優先モードでも、ピントが合うまではシャッターが切れません。また、このモードでの連続撮影はしないでください。
3： 被写体の追い方が測光インジケーターに表示されます。表示が十側にあるときは、被写体をスムーズに追えています。
4： 背景のボケ具合いが測光インジケーターに表示されます。表示が十側にあるときは、背景がくっきりと撮影されます。
5： アップダウンレバーのかわりに、前ダイヤルで操作してください。
6： Mモードでフラッシュを使用しないときに、絞り値をずらして行なうフェードイン・フェードアウトはできません。
7： Mモードで、絞り値をずらして行なうブラケット撮影はできません。
8： フラッシュブラケットでは、カメラから目を離したときに次のコマの露出補正量と撮影コマ数が表示されます。
9： シャッター速度1/300秒は1/250秒として、1/12000秒は1/8000秒として記憶されます。
10： オートフォーカス優先モードでの使用をおすすめします。
レリーズ優先モードで使用する場合は、ピントが合っているのを確認してからシャッターを切ってください。(ピントが合わないとファンタジー効果が得られません。)また、連続撮影はしないでください。
11： レリーズ優先モードでも、ピントが合うまではシャッターは切れません。
12： 撮影開始時の絞りとシャッター速度の組み合わせを変えることはできません。
13： カードを入れると自動的にスポット測光になります。スポットボタンの代わりにAEロックボタンを押してください。
14： カメラから目を離したときに、それまでに測光した回数が表示されます。
15： パーソナルモードの測光方式は、ハニカムパターンまたは中央重点的平均測光のどちらかに設定してください。
16： ブラケット連続撮影中はAPZ(アドバンスプログラムズーム)は作動しません。
17： 露出オーバー側のフラッシュブラケットの効果は得られないことがあります。
18： Qボタンを押しながらインターバル撮影を開始した場合は、撮影終了後もフイルムは巻き上げられません。撮影が終わった後、必ずQアジャストボタンを押して巻き上げてください。
19： フイルムカウンターが一時的に機能しなくなりますが、撮影はできます。
20： カードには、そのコマで最後に撮影した時のデータのみが記憶されます。
21： AEロックボタン、Qボタンのどちらでも操作できます。
22： AEロックボタンとQボタンの両方を押してください。

パノラマ撮影

パノラマアダプターセット(別販売)を使うと、パノラマ写真を気軽に楽しむことができます。

パノラマアダプターをこのカメラに取り付けると、ファインダー内にパノラマフレームが自動的に表示され、フイルムにはこのフレーム内のものが写ります。プリントするとパノラマ写真になります。

<手動によるパノラマフレームの出し方>

パノラマアダプターを付けなくても、ファインダー内にパノラマフレームを表示させることができます。プリント時にトリミングしてパノラマ写真に仕上げようとするときにお使いください。

ファンクションボタンを押しながら①、ワイドビューファインダーボタンを押します②。

- もう一度繰り返すとパノラマフレームは消えます。
- 撮影後、パノラマフレームは自動的に消えます。

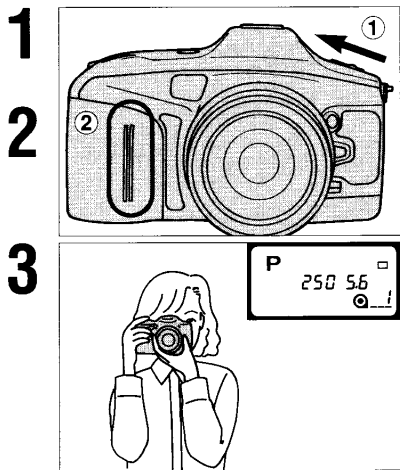
注意

- **パノラマ写真にするには、六つ切りフチなしの大きさにプリントして、上下が9cmになるように切ってください。**

その他

知っておくと便利な情報、取り扱い上の注意事項などについて説明しています。
取り扱い上の注意につきましてはぜひお読みください。

アイスタート

アイスタートとは、カメラを構えただけでピント合わせと露出(絞り値とシャッター速度)の決定が自動的に行なわれることで、以下のようなしくみになっています。

1 メインスイッチをONにします①。

- グリップセンサーのスイッチが入ります。

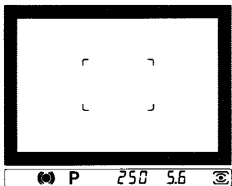
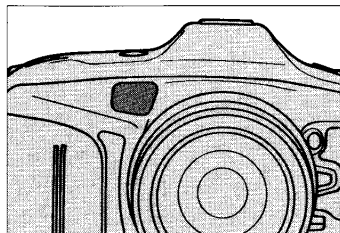
2 グリップセンサーに触れるようにカメラを持ちます②。

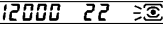
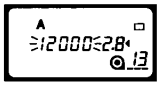
- ファインダーの下のアイセンサーのスイッチが入ります。

3 そのままファインダーをのぞきます。

- カメラを構えたことをアイセンサーが検知し、自動的にピントを合わせ、シャッター速度と絞り値を決定します。
- ボディ表示部とファインダー内に設定された絞り値とシャッター速度が表示されます。

注意
- 手袋をはめたままカメラを持つと、グリップセンサーに触れていても、アイスタートは作動しません。この場合はシャッターボタンを半押し(途中まで軽く押すこと)してください。

- カスタムカードXiを使うと、グリップセンサーに触れなくてもアイスタートさせることができます。

AF補助光

被写体が暗い、明暗差(コントラスト)が小さいなど、ピントを合わせにくい場合は、シャッターボタンを半押しするとAF補助光が自動的に発光し、ピント合わせができるようにします。

注意
- AF補助光での測距可能範囲は、約0.7〜9mです。(50mmレンズ使用時、当社試験条件による)
- カメラを構えたときに、AF補助光発光部を覆わないようにしてください。
- AF補助光は、AFマクロズーム3X-1Xおよび焦点距離300mm以上のレンズ(ズーム系のレンズを除く)では発光しません。

露出の警告(表示が点滅したとき)

カメラの測光できる範囲より被写体が明るすぎる場合や暗すぎる場合、ボディ表示部とファインダー表示部に警告を出します。

	表示部	原　因	処　置
P/A/S/M	P 12000 22 13 12000 22	被写体が明るすぎる、または暗すぎてカメラの測光範囲を越えています。	被写体が明るすぎるときは、NDフィルターを使うか、被写体が暗くなるようにします。被写体が暗すぎるときは、フラッシュ撮影を行なうか、被写体が明るくなるようにします。
P	P 12000 22 13 P 12000 22	被写体が明るすぎる、または暗すぎて使用レンズの絞り値、シャッター速度の範囲を越えています。	
PA/A	A 12000 2.8 13 A 12000 2.8	被写体が明るすぎる、または暗すぎてシャッター速度の範囲を越えています。	シャッター速度が点滅しないように絞り値を変更します。
PS/S	S 12000 3.5 13 S 12000 3.5	被写体が明るすぎる、または暗すぎて使用レンズの絞り値の範囲を越えています。	絞り値が点滅しないようにシャッター速度を変更します。

測光インジケーター表示一覧表

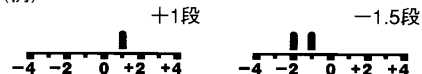
測光インジケーターは、カメラの状態によって4通りの表示機能があります。

カメラの状態		▮の表示内容
Mモード設定時(P.28)		カメラが測光した露出値を基準(0)にして、撮影者が設定したシャッター速度と絞り値による露出値を表示
P/A/Sモード設定時	ハニカムパターン測光での露出補正設定中(ファンクションボタンを押した後、設定完了まで)(P.35)	中央重点的平均測光による露出値を基準(0)にして、14分割ハニカムパターン測光による露出値(中央重点的平均測光による露出値との差)を表示 ※撮影者が設定した露出補正分も含む
	中央重点的平均測光での露出補正設定中(ファンクションボタンを押した後、設定完了まで)(P.36)	撮影者が設定した露出補正量を表示
	スポット測光時、AEロックボタンを押している間(P.38)	AEロックボタンを押して固定した測光値を基準(0)にして、構図を変えた後のスポット測光フレーム内の測光値(固定した測光値との差)を表示

●インジケーターは以下のように表されます。▮が2つ表示されたときは、その間の値になります。

(例)

+1段　　　　−1.5段

−4 −2 0 +2 +4　　−4 −2 0 +2 +4

●4.5段以上オーバー(またはアンダー)の時は、+4または−4のところで▮が点滅します。

取り扱い上の注意

電池に関する注意(リチウム電池の場合)

- **電池を火の中へ投入したり、充電、ショート、分解、加熱したりすると、発熱、破裂、発火の原因となり非常に危険ですので絶対にしないでください。**
- **コイン型電池は幼児の手の届かないところへ保管してください。万一飲み込んだときは、直ちに医師にご相談ください。**
- 電池の性能は低温下では低下します。寒いところで使用するときは、カメラを保温しながら撮影してください。常温に戻せば電池の性能は回復します。
- 長期間の旅行や寒い所では、予備の電池をご用意ください。
- 撮影可能本数(P.73参照)はカメラの使い方、使用温度によって変わります。表記の値より少なくなることもありますので、海外旅行や寒いところでカメラをご使用になる場合は、予備の電池を用意されることをおすすめします。
- 電池に記載されている注意事項を守ってください。
- 長期間使用しないときは、電池を抜き取って保管してください。

使用温度について

このカメラの使用温度範囲は–20～50℃です。

- 日付写し込み機能は、0～50℃の範囲で使用することができます。0℃以下では写し込めないことがあります。
- 直射日光下の車の中など、極度の高温下にカメラを放置しないでください。故障の原因になります。
- 液晶表示は、低温下で反応がやや遅くなったり、60℃ぐらいの高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻せば正常に作動します。

- カメラに急激な温度変化を与えると内部に水滴を生じる危険性があります。スキー場のような寒い屋外から暖かい室内に持ち込む場合は、寒い屋外でカメラをビニール袋に入れ、袋の中の空気を絞り出して密閉します。その後、室内に持ち込み、周囲の温度になじませてからカメラを取り出してください。

その他の注意

カメラは精密機械です。取り扱いにはご注意ください。

- シャッター幕、ミラー、レンズの信号接点などに傷がつかないように気を付けてください。

このカメラは防水構造ではありません。

- 万一水にぬれたときは乾いた布で水をふき取り、すみやかに当社サービスセンターまたはサービスステーションにお持ちください。

このカメラの内部には高電圧回路がありますので、絶対に分解しないでください。

- 故障したときは、必ず当社サービスセンターまたはサービスステーションにお持ちください。
- 空港の手荷物検査を受けるとき、フイルムがカメラの中に入っているとX線でフイルムが感光してしまうことがあります。検査官にフイルムの入ったカメラであることを伝えて、X線の照射を避けてください。
- このカメラでは、コントロールグリップCG-1000、データレシーバーDR-1000は使用できません。
- カメラに異常が生じているとき、ボディ表示部に"HELP"と表示されたり、まったくカメラが動かなくなってしまうことがあります。このような場合は、電池を一度取り出して入れ直してください。それでも直らない場合、また何度も繰り返して"HELP"が出る場合は、お近くの当社サービスセンターまたはサービスステーションにお問い合わせください。
- このカメラの機能を活用していただくためには、当社独自のノウハウによりボディ特性に適合するように設計・製造管理されているレンズおよび付属品の使用をおすすめします。当社製品以外の付属品を単に装着できるというだけでお使いになる場合、いかなる事象が生じるかについては予想いたしかねます。
- 万一、このカメラを使用中に、撮影できなかったり、不具合が生じた場合の補償についてはご容赦ください。

手入れと保管のしかた

手入れのしかた

カメラボディを清掃するとき

柔らかいきれいな布で軽くふくか、市販のブロアブラシでホコリを吹き飛ばしてください。とくに海辺で使った後は、真水を少量浸した布で塩分をふき取り、乾いた布でよくふいて乾かしてください。

レンズやフイルム室内を清掃するとき

ブロアでほこりを除き、柔らかいきれいな布で軽く拭き取ってください。汚れがひどい場合は、当社サービスセンター、サービスステーションにお持ちください。

- シンナー、ベンジンなどの有機溶剤を含むクリーナーは絶対に使わないでください。
- 汚れがひどいときは、当社サービスステーションにお持ちください。

保管のしかた

カメラケースを外し、風通しの良いところに置いてください。湿気の多い時期には、ポリエチレン袋などに乾燥剤と一緒に入れるとより安全です。長期間使用しない場合は、フイルムと電池を抜いてください。

- 防虫剤の入ったタンスなどには入れないでください。
- 長期間使用しないと、カビがはえたり、故障の原因になったりすることがあります。ときどきシャッターを切るようにし、また使用前には整備点検されることをお勧めします。

アフターサービスについて

- 本製品の補修用性能部品は、生産終了後10年間を目安に保有しています。
- アフターサービスについては、「アフターサービスのご案内」に詳しく記載していますので、ご覧ください。

主な性能

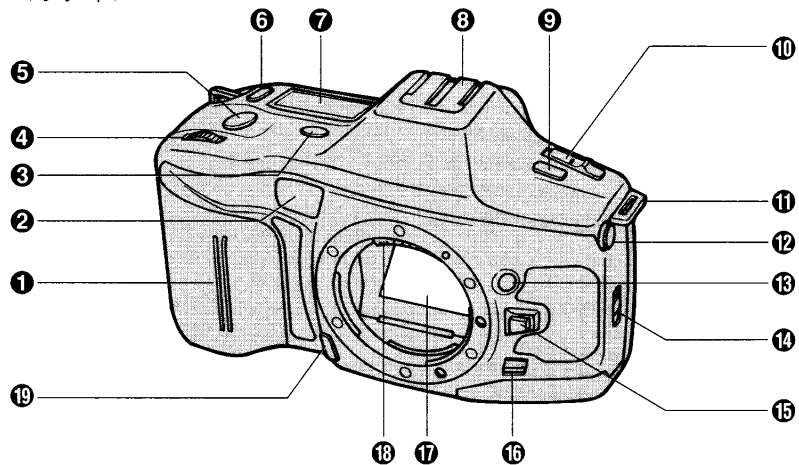
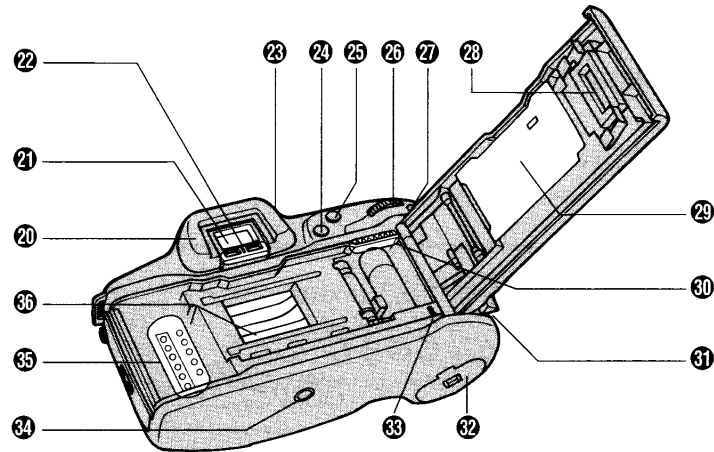
●オートフォーカス方式	方式：TTL位相差検出方式　検出素子：CCDラインセンサー 検出範囲：EV−1～19(ISO 100)　AF制御自動切り替え　動体予測フォーカス制御
●AF補助光	低輝度かつ低コントラスト時自動発光　専用フラッシュ装着時必要に応じてフラッシュの内蔵AF補助光に自動切り替え 作動距離範囲：約0.7～9m
●測光方式	TTL開放測光　多分割測光(測光値ファジィ演算)　スポット測光　中央重点的平均測光　専用フラッシュ使用時はTTLダイレクト測光 受光素子：多分割ハニカムパターンSPC(シリコンフォトセル) フラッシュ光調光用SPC　測光範囲：EV0～20　スポット測光時はEV3～20(ISO 100、F1.4レンズ)
●シャッター	電子制御式縦走りフォーカルプレーンシャッター シャッター速度：1/12000～30秒 バルブ(新品電池使用で約6時間) フラッシュ同調最高速度：1/300秒 ワイヤレスフラッシュ撮影時は1/60秒(レシオ時は1/30秒)
●ファインダー	透過型液晶表示付き　全面アキュートマット 視野率：縦92%×横94%　倍率：0.75倍(50mmレンズ、∞位置) 視度調整：−2.5～+0.5 diopt. アイポイント：22.6mm(接眼枠より18.5mm)
●フォーカシングスクリーン	全面アキュートマット(G型)　サービスセンター・サービスステーションにて方眼マット式(L型)または目盛線式(S型)に交換可能
●フイルム感度設定	自動設定：ISO 25～5000　手動設定：ISO 6～6400　1/3ステップ
●使用電池	6Vリチウム電池(2CR5) 1個 (クォーツデート用　CR2025電池1個)
●撮影可能本数	約50本(24枚撮りフイルム使用、新品電池使用)
●大きさ・重さ	163(幅)×98.5(高さ)×64(奥行き)mm 755g(電池別、クォーツデート用電池含む)

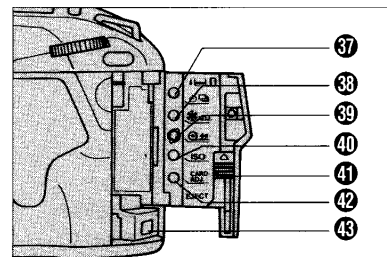
本書に記載の性能は当社試験条件によります。
本書に記載の性能および外観は、都合により予告なく変更することがあります。

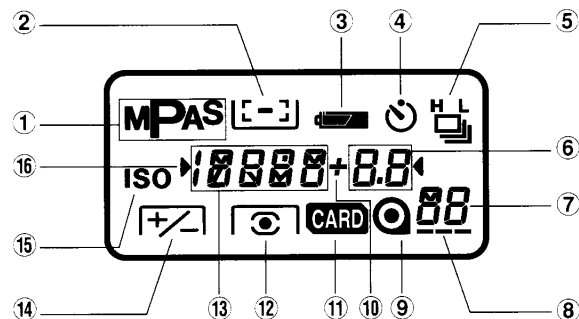
各部の名称

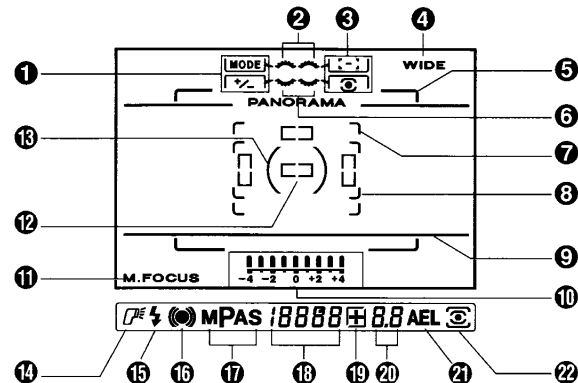
＊印のついたところは、触らないように注意してください。

(　)内は参照ページの番号です。

<ボディ>

❶グリップセンサー(66)
❷セルフタイマーランプ／AF補助光発光部(41, 67)
❸ワイドビューファインダーボタン(52)
❹前ダイヤル
❺シャッターボタン
❻カードキー(61)
❼ボディ表示部(76)
❽オートロックアクセサリーシュー
❾プログラムセットボタン(12)
❿メインスイッチ
⓫ストラップ取り付け部
⓬シンクロターミナル(57)
⓭フラッシュ強制発光ボタン(58)
⓮裏ぶた開放レバー
⓯レンズ交換ボタン(5)
⓰フォーカスモードスイッチ(20)
⓱ミラー*
⓲AFレンズ信号接点*
⓳プレビュー(絞り込み)ボタン(49)

⓴アイピースカップ(3)
㉑ファインダー*(77)
㉒アイセンサー*(66)
㉓視度調整ダイヤル(9)
㉔AEロックボタン(29, 37, 60)
㉕Q(クイック)ボタン(44)
㉖後ダイヤル
㉗ファンクションボタン(14)
㉘フイルム確認窓
㉙フイルム圧着板*
㉚裏ぶた信号接点*
㉛カードホルダー
㉜電池室(4)
㉝フイルム先端マーク(6)
㉞三脚ねじ穴
㉟DX接点*
㊱シャッター幕*

カードホルダー内

㊲セルフタイマー／巻き上げモードボタン(40, 41)
㊳Qアジャスト(設定)ボタン(44)
㊴途中巻き戻しボタン(8)
㊵フイルム感度設定ボタン(50)
㊶カードイジェクト(取り出し)レバー(61)
㊷カードアジャスト(設定)ボタン
㊸リモートレリーズターミナル(30)

<ボディ表示部>

①撮影モード表示(22)
P／PA／Ps：プログラムモード
A：絞り優先モード
S：シャッター速度優先モード
M：マニュアルモード
②フォーカスエリア表示(16)
[ ]：ワイドフォーカスエリア
[-]：ローカルフォーカスエリア
③電池容量表示(4)
④セルフタイマー表示(41)
⑤巻き上げモード表示(40)
□：1コマ撮影
H：連続撮影H(高速)
L：連続撮影L(低速)
⑥絞り値／露出補正値表示
⑦フイルムカウンター
⑧フイルムマーク
⑨パトローネマーク
⑩露出補正マーク
⑪カード表示
⑫測光方式表示(31)
[◉]：14分割ハニカムパターン測光
[○]：中央重点的平均測光
[•]：スポット測光
⑬シャッター速度／フイルム感度／ローカルフォーカスフレーム表示
⑭露出補正表示(34)
⑮フイルム感度表示(50)
⑯セットマーク

<ファインダー表示部>

スクリーン内表示

❶ファンクション1表示
MODE：撮影モード表示(22)
+/-：露出補正表示(34)
❷前ダイヤルマーク
❸ファンクション2表示
[-]：フォーカスエリア表示(16)
[◉]：測光方式表示(31)
❹ワイドビューファインダー表示(52)
❺ワイドビューファインダー撮影画枠
❻後ダイヤルマーク
❼ワイドフォーカスフレーム
(カメラ横位置用)
❽ワイドフォーカスフレーム
(カメラ縦位置用)
❾パノラマフレーム(64)
❿測光インジケーター(69)
⓫マニュアルフォーカス表示(20)
⓬ローカルフォーカスフレーム(17)
⓭スポット測光フレーム(32, 38)

スクリーン外表示

⓮フラッシュ撮影表示(58)
⓯フラッシュ充電完了／調光確認表示(58)
⓰フォーカス表示(11)
⓱撮影モード表示(22)
⓲シャッター速度／フイルム感度／ローカルフォーカスフレーム表示
⓳露出補正マーク(30)
⓴絞り値／露出補正表示
㉑AEロックマーク(37)
㉒測光方式表示(31)